

冬の企画展

これが凄いい!

徳島の歴史

元禄一五年（一七〇二）の赤穂浪士による吉良邸討入り前日に記された大石内蔵助の自筆書状や、嗣に江戸時代後期の天才絵師、円山応挙が描いた獅子図のある八代藩主蜂須賀宗鎮所用の「紫系威大鎧」、そして殿様が三〇年間にわたって書いた参勤交代の旅日記など、徳島は興味深い歴史に彩られています。

この展覧会では、輝かしい徳島の歴史を振り返るとともに、「これが凄い」と思われる資料を取り上げ、あらためてその魅力を探っていきます。



「柳二水車図板戸」 2面1組
江戸後期 徳島城西の丸使用 徳島県指定文化財



「千利休書状」 1幅
天正14年(1586) 魚屋立安宛

利休の甥が城下町徳島にいた!



「参勤帰国旅中日記」 30冊
江戸後期 12代藩主蜂須賀斉昌日記

殿様の参勤交代の旅日記が残されていた。殿様は旅を楽しんでいた!



「阿波国印」 1顆
天明7年(1787) 藩儒柴野栗山模刻

谷文晁が殿様の顔を描いた

「蜂須賀治昭画像」 1幅
江戸後期 谷文晁筆



討入り前日の内蔵助自筆書状
討入りと徳島藩との関わり判明!



「紫系威大鎧」 1領
江戸中期 8代藩主蜂須賀宗鎮所用 徳島市指定文化財

「大石内蔵助書状」 1巻
元禄15年(1702) 三尾詮悟宛

